

2015年6月26日

報道関係各位

中部学院大学
中部学院大学短期大学部

JICA 草の根技術協力事業

ベトナム・ダナン医薬技術大学と連携 ダナン市の看護職を対象に老年ケア・キーパーソンを養成 29日からベトナム保健省の担当者が視察

中部学院大学（学長 古田 善伯）ならびに同短期大学部（学長 片桐 多恵子）は、関市とベトナムのダナン医薬技術大学（グエン キャク ミン学長）と連携して、ベトナム・ダナン市で、日本の高齢者介護を習得した「老年ケア・キーパーソン」（以下 キーパーソン）を養成することになりました。6月29日には、ベトナムから保健省担当者、ダナン医薬科学技術大学のミン学長らが本学などを訪問します。

ダナン医薬技術大学は、ベトナム保健省立の国立大学で、看護学科、リハビリ学科、医療検査技師学科、薬学科など、医療専門職の教育機関。卒業生はベトナム中部のダナン市を中心に多くの病院で活躍しています。本学は、ダナン医薬技術大学に協力し、ベトナムの来るべき高齢化に備えるため、日本の先進的な高齢者介護、看護を伝え、人材の養成を連携して行うことを進めてきました。

JICA 草の根技術協力事業を受け、これから 日本語講師と老年ケア講師を現地に派遣し、約9カ月にわたって日本語教育および老年ケアの養成研修を実施するのをはじめ、本学の介護・看護教員を派遣し、老年ケアの特別講義を行ったり、ダナン医薬技術大学の看護教員を日本に招へいし、本学ならびに関市内の高齢者施設で研修の機会を提供したり、関市招へい研修生20人に対して6週間（本学2週間＝技術実習、高齢者施設4週間＝現場実習）にわたり研修を実施することを予定しています。（詳細は別紙参照）

記

【ベトナム保健省 来日】

- 日 程 2015年6月29日(月)
- 10:00～11:00 中部学院大学 関キャンパス(関市桐ヶ丘2丁目1番地)
(看護、リハビリ、介護の設備を視察)
- 11:30～12:15 関市 副市長表敬訪問
- 12:30～14:15 昼食・懇談
- 14:30～16:20 関市内見学(関鍛冶伝承館、刃物会館)
- 2015年6月30日(火)
- 9:30～12:00 中濃厚生病院視察
- 13:00～15:00 社会福祉法人祥雲会 特別養護老人ホームあかつき

- 訪問者 保健省 短期大学・大学担当教育管理科学技術部
グエン ベト クオン 副部長
ダナン医薬技術大学 グエン キャク ミン 学長 ほか

【今回の目的】

JICA 草の根技術協力事業「ダナン市の看護職を対象にした老年ケア・キーパーソン養成事業」を遂行するにあたり、カウンターパートであるダナン医薬技術大学の学長と関係者及びダナン医薬技術大学を所掌する保健省の担当者に日本での老年ケアの様子を視察していただき、ベトナムで普及させるための活動助言などをいただく。

【経緯】

- 2014年 5月 申請団体＝関市 実施団体＝中部学院大学として
JICA 草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)に申請
- 8月 JICA から内定通知。MOU(覚書)締結に向けて活動を始める
- 10月 カウンターパートであるダナン医薬技術大学学長らが来学
関市長表敬訪問
- 2015年 3月 MOU 締結
JICA と業務委託契約を締結

【JICA 草の根技術協力事業

ダナン市の介護職を対象にした老年ケア・キーパーソン養成事業】

1. 対象国名： ベトナム社会主義共和国

2. 事業名： ダナン市の看護職を対象にした老年ケア・キーパーソン養成事業

3. 事業の背景と必要性：

今後、ベトナムでは、経済の発展、生活様式の変化、医療技術の向上によって、高齢化が進み、生活習慣病等の慢性疾患や精神疾患等の増加が見込まれる。これに伴って、高齢者に対する老年ケア（老年看護・介護の知識と技術）の取組みが求められる。日本では、看護技術の向上に加え介護の専門性を確立することで、生活モデルによる障害の軽減と重度化の予防を図ってきた。日本の老年ケアをベトナムに移転することで、病院需要が急増するベトナムで、病院と在宅との機能分化を促し患者の(Quality Of Life)QOLを向上することができる。関市では、市内の病院、介護施設、大学が連携して、看護・介護職員の資質向上を図ってきた実績がある。また、刃物の生産技術を生かした、介護機器・医療機器をベトナムに紹介することができる。

4. 事業の目的：

日本の老年ケア（老年看護・介護）の理念とスキルを移転し、看護の質を高め、ベトナム国における「高齢者患者の寝かせきり」「認知症高齢者の拘束」等の介護問題の解決に資する。

5. 対象地域： ダナン市

6. 受益者層：

ダナン市内の病院で働く看護従事者、もしくは看護資格者 直接裨益者：約 300 名
間接裨益者：約 3,000 名

7. 期待される成果：

日本の老年ケアを習得した「老年ケア・キーパーソン」（以下 キーパーソン）が養成され、キーパーソンの活躍によって看護の質が向上し、入院患者のQOLが改善される。

8. 各活動：

■ 中部学院大学の役割

- 1) 日本語講師と老年ケア講師を現地に派遣し、約9カ月にわたり日本語教育及び老年ケアの養成研修を実施する。
- 2) 中部学院大学から介護・看護教員を派遣し老年ケアの特別講義を行う。
- 3) 日本から派遣した老年ケア教員がケアセンターにおいて老年ケア実践の普及を図る。

■ 日本で受け入れた研修員の活動

- 1) ダナン医薬技術大学の看護教員を日本に招へいし、中部学院大学ならびに関市内の高齢者施設で研修の機会を提供する。
- 2) 関市招へい研修生20人に対して6週間（中部学院大学2週間、高齢者施設4週間）にわたり研修を実施する。本学では技術実習、高齢者施設では現場実習を行う。

■ ダナン医薬技術大学の役割

- 1) ダナン医薬技術大学の中に事務所を設け、プロジェクトスタッフ（現地調整員1名、研修助手1名）が活動することへの協力。
- 2) ベトナム保健省への連絡と報告。
- 3) ダナン医薬技術大学の看護教員を日本へ派遣し研修を受けさせる。
- 4) キーパーソン養成研修に必要な教室と設備の使用を許可する。
- 5) ダナン市内の病院や医療施設に、本事業の趣旨を説明し研修生の募集に協力する。
- 6) 関市招聘へい研修生の出国手続きに協力する。
- 7) ケアセンターの立ち上げに協力し、キーパーソンによる継続学習と実践を支援する。
- 8) キーパーソンによる伝達講習をサポートする。
- 9) 活動の成果をまとめる作業に協力する。
- 10) 研修のために使用する資機材の調達及び購入にかかる手配に協力し、本学と共同で管理をする。

9. 財 源：

本事業を推進するための活動資金は、JICAの規定により中部学院大学が負担する。

10. 実施期間： 2015年4月～2017年3月

11. 実施機関： (日本側) 中部学院大学 (ベトナム側) ダナン医薬技術大学

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学 プロジェクトマネージャー 飯尾 良英 (人間福祉学部 教授)

TEL:0575-24-2211 (関キャンパス) Mail : iio@chubu-gu.ac.jp